

令和8年度定時総会  
東京しごと財団（東京都シルバー人材センター連合）理事長挨拶

令和8年度定時総会にあたり、ご挨拶申し上げます。

我が国の総人口が減少する中で、65歳以上の人口は、総務省統計局によりますと令和8年3月時点で3,617万人となり、総人口に占める割合は過去最高の29.4%となっております。さらに、令和7年の労働力調査では、65歳以上就業者数は943万人、就業率は26.0%で、65歳以上の4人に1人は就業していることとなります。

シルバー人材センターは、自主・自立の組織理念、共働・共助の事業理念を掲げて事業を推進し、昨年度に創設50周年を迎えました。地域における働く意欲のある高齢者の就業の受け皿として、幅広いニーズに応えられるよう就業の機会を拡大し、生きがいやコミュニケーションの場として地域社会の活性化にも貢献してまいりました。労働力人口が減少する中で以前にも増して大きな役割が期待され、社会的な注目度も上がってきております。

このようなおり、令和8年度には東京都において、シルバー人材センターの安全就業を抜本的に強化するため、事故防止強化学業が予算化されました。令和7年度に600件を超過した傷害事故発生件数を年間500件以下に抑えることを目指し、転倒事故防止や熱中症対策等の支援を強化するとともに、会員が安全に働き続けられるよう「フレイル対策」を推進いたします。

また、改正公益認定法への対応や新公益法人会計基準への移行、業務の効率化等、シルバー人材センターの事業運営を取り巻く状況が大きく変化しています。このような状況変化の中、専門家（中小企業診断士）と連携して各センターを訪問し、課題のヒアリングや情報提供、解決に向けた助言を行う等、運営基盤強化に向けた支援を実施してまいります。

令和7年度の東京都シルバー人材センター連合全体の会員数はコロナ禍以前のレベルまで回復していないものの、女性会員数は順調に増加しており、過去最高数を更新し続けております。また、会員の平均年齢は毎年上昇し続け、令和6年度末時点で76歳に達しています。このように会員の高齢化が進む中、高齢会員が無理なく活躍できるよう就業機会の創出が求められています。今後のシルバー人材センター事業の継続的な発展に向けて、新規入会の促進および既存会員の定着（退会抑制）は大きな課題であり、東京都シルバー人材センター連合は、引き続き各シルバー人材センターの皆様方と手を携え、一丸となって課題解決に取り組んで参ります。

結びに、今や「人生100年時代」と言われておりますが、地域のシルバー人材センターの関係者の皆様には「人生・しごと・笑い100年時代」の到来を確信できるよう、会員の皆様が「心と体と頭」の健康を維持し、さらに輝くとともに、関係各位の益々のご健勝と貴シルバー人材センターの一層の発展を心より祈念しまして挨拶といたします。

令和8年6月

公益財団法人東京しごと財団  
(東京都シルバー人材センター連合)  
理事長 中澤 基行